

# 2022年度 郡山女子大学入学者選抜における アドミッション・ポリシーおよび入試内容等について

## 高大接続改革(文部科学省)

グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会構造も急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要です。このためには、「学力の3要素」(1.知識・技能、2.思考力・判断力・表現力、3.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を育成・評価することが重要であり、義務教育段階から一貫した理念の下、「学力の3要素」を高校教育で確実に育成し、大学教育で更なる伸長を図るため、それをつなぐ大学入学者選抜においても、多面的・総合的に評価するという一体的な改革を進めていく必要があります。

これまでの「知識の習得を中心とした教育」から「学力の3要素」に重きを置いた教育となることから、本学の選抜方法が変わります。

本学の選抜においては、学力の3要素を多面的、総合的に評価するために、基礎能力調査、調査書、活動報告書、入学希望理由書等出願時における書類、面接、小論文、プレゼンテーションを実施いたします。また、選抜に関し、以下のことを追加事項とします。

- 「知識・技能」を評価する観点から、入学後、大学教育を学ぶために必要な学力を有していることを出願要件とします。学校推薦型選抜においては、以下の要件を満たすことで出願できることとします。

生活科学科	評定平均値が3.5以上または、指定教科のいずれか1つが3.5以上 ● 社会福祉専攻: 国語、英語、公民、(福祉) ● 建築デザイン専攻: 国語、英語、数学、(工業)
食物栄養学科	評定平均値が3.5以上

- 「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から面接を行います。総合型選抜においては、オープンキャンパス等に行う面接において、相談カルテを作成し対応します。

- 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から、「入学希望理由書」、「活動報告書」および「調査書」等の提出を求めます。資格や校内・校外活動における目的や意欲を評価します。

# 人材養成の目的 3つの方針

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー) / 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) / 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

## 〈建学の精神〉

- 「尊敬」 お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創ること。そして他者においてそれを認めること。
- 「責任」 人間として存在するためには責任ある行動で社会への自覚をもちうること。
- 「自由」 学園の規則を守りながら、個人の求める、あらゆる自由な発想と研究とで個性豊かな人格を作ること。

## 〈入学者選抜の実施方針〉

本学は、学力を構成する重要な要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

## 生活科学科

### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

生活科学科は、人間の健全な生活の実現を共通の目的として、社会福祉と建築デザインの分野について、専門的かつ融合的に学ぶことにより、地域における福祉と建築に関する課題の解決に取り組み、地域の活性化に資する福祉と建築の専門的人材を養成し、定着させ、地域の復興、創生に寄与することを教育目的とします。

### ● 社会福祉専攻

社会福祉には、人々の権利を護り、幸福な生活を追求し、家庭および地域社会で暮らし続けることを支える役割があります。

社会福祉専攻では、今日の少子高齢化により発生している課題をはじめ、障がい者(児)福祉、児童家庭福祉、地域福祉など幅広い分野の知識を学び、多様な相談に適正に助言、解決につなげる相談支援指導の実践力を有する社会福祉士(ソーシャルワーカー)、福祉の高度な専門知識とケアマネジメント力をもつ介護福祉士を養成するための教育・研究を行います。さらに、多様化する広い生活領域を学び、生活者の視点から、安全で安心な生活を創造し、地域社会へ貢献することができる自立した女性の育成をめざしています。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

### 1. 求める人材像と学力の3要素

- 社会福祉に関する地域の諸問題を自ら考え、解決策を判断し提示できる人。(思考力・判断力・表現力)
- 高い教養と専門的知識・技術を修得して、家庭生活や社会生活の諸問題を自ら考え、解決策を判断し、表現できる人。(思考力・判断力・表現力)
- 主体性を持って他者への支援を行う意欲と、地域社会へ貢献する意欲を持つ人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 社会福祉士、介護福祉士、中学校・高等学校家庭科教諭、特別支援学校教諭などの資格取得を希望し、福祉や家政学の専門的知識・技術を修得する意欲のある人。(知識・技能)

### 2. 求める学習の成果

- 現代社会が抱える福祉の諸問題に関心を持ち、それらを解決するため、幅広い分野の基礎知識を習得していること。
- 対人援助の専門職として必要となるコミュニケーション能力を有していること。
- レポートや実習日誌等の作成、専門書の読解力等、学士課程教育を学ぶために必要な基礎学力(国語、外国語)を有しているとともに、基本的な概念を理解し、基礎的事象に対しては、論理的に考察できる能力を有していること。
- 高等学校等において、明確な目的意識をもって主体的に学び、他者と協調・協働して活動に取り組む経験をしていること。

### □ 入学者選方法と評価のポイント

※本年度は新型コロナウイルス感染症による行動の自粛が続き、さらに各種活動の制限から各大会等も中止となっていることで、出願書類の作成にあたって、大きく影響を受けておられると見られます。

本学では、出願書類の記載について、各種活動の結果や成果の他に成果達成に向けた努力の過程や工夫等もご記入いただきますことで、多面的・総合的に評価します。

入試形態ごとの入学者に求める能力とその選抜方法、評価方法(学力の3要素を踏まえた評価)。

#### < 総合型選抜 >

- 面接において、本学科各専攻の特性に合う「思考力、判断力、表現力」を観点にして評価します。またアドミッション・ポリシーの適合性も評価します。
- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 課題のプレゼンテーションにおいて、「基礎学力(知識・技能)」を観点にして課題に対する知識が備わっているか評価するとともに「思考力・表現力」を評価します。
- オープンキャンパス等における学科個別相談で記載の「相談カルテ」は、面接の参考資料として活用します。

#### < 学校推薦型選抜 >

- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 面接において、「思考力、判断力、表現力」、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」、「アドミッション・ポリシーとの整合性」の点から評価します。なお、出願書類にある入学希望理由書は面接における参考とします。
- 基礎能力調査において基礎知識と思考力、判断力を評価します。

#### < 一般選抜 >

- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 個別学力試験において、学科の特性に合う基礎知識と思考力・判断力を独自の学力試験(国語または外国語)で評価します。

#### < 大学入学共通テスト利用選抜 >

- 社会福祉専攻では「国語力」「英語力」より、知識と思考力、判断力を大学入学共通テストを用い、「国語」「英語」のいずれかの高得点の科目で評価します。
- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。

### ● 建築デザイン専攻

建築物は、人々が安全で快適に生活することができる空間であるとともに、その地域の文化、歴史、自然等を踏まえた高いデザイン性を有している必要があります。

3. 建学の精神—尊敬・責任・自由—により、人間として人格形成を志向し、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会的責任を果たすことができる。(志向性、社会的責任)
4. 学修や実習などによる総合的経験や横断的思考力を活かし、地域社会における福祉・建築・生活に関する諸問題に新たな発想で取り組むことができる。(総合的な学習経験、創造的思考力)
5. 達成度評価については、GPA1.8以上を基準とする。(達成度の評価)

### ● 社会福祉専攻

1. 社会福祉や介護福祉教育の3領域において、それぞれに必要な広範な専門的知識と技術を修得し、それらを応用できる。(知識・理解)
2. 基礎知識と専門的知識により、高齢者や障がい者(児)などを取り巻く社会環境を多面的かつ総合的に把握し、社会福祉および介護福祉教育をめぐる様々な問題に対処できる論理的思考力と問題解決へ導く能力を身につけている。(論理的思考力、問題解決力)
3. 他者を援助し、他者と協調できる人格形成を志向し、社会的責任を果たそうとする態度と倫理観を身につけている。(倫理観、社会的責任)
4. 実習、地域交流活動、卒業研究などによる総合的経験と横断的思考力を活かし、地域の福祉や生活をめぐる課題を解決する能力を身につけている。(総合的な学習経験、創造的思考力)

### ● 建築デザイン専攻

1. 建築分野において、一級建築士および二級建築士、その他の建築関係資格取得者として必要な広範な専門的知識と技術を修得し、それらを活用できる。(知識・理解)
2. 基礎知識と専門的知識により、住居や建築に関する問題を科学的根拠に基づいて論理的に思考し、解決できる。(論理的思考力、問題解決力)
3. 自然を尊重し、自然と共生可能な住環境の創造を志向し、人間と社会と自然の永続的存続という社会的責任を果たすことができる。(倫理観、社会的責任)
4. 建築物の視察、建築現場の視察・研修、卒業研究などによる総合的経験を活かし、地域の建築が抱える課題を広い知性と新たな発想で解決できる能力を身につけている。(総合的な学習経験、創造的思考力)

### GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という「量」のみだけでなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPが「3」となります。仮に単位数が「2」とすると、以下のようになります。

$$GPA = \frac{(\text{単位数} : 2) \times (\text{GP} : 3)}{(\text{単位数} : 2)}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になっていきますが、よい成績を取るよう努力をする必要があります。詳細は、入学後に配付される単位履修の手引きを確認してください。

### ● 成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし

- 2) 介護福祉士養成関係科目は主に1年～2年次にわたって開講し、社会福祉士養成関係科目は主に3年～4年次前期にかけて開講しています。カリキュラム全体としては、具体的認識を基盤にして理論や制度の理解に進む順次性を持っています。
- 3) 介護の基本、生活支援技術、介護過程、介護総合演習、介護実習、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワーク演習・実習指導・実習などの科目は、学年進行に応じて系統的に設定され、社会福祉および介護福祉に関する専門的知識と技術を合理的に修得し、体系だった理解を構築することを目指しています。
- 4) 社会福祉士および介護福祉士としての実践能力は、主としてソーシャルワーク実習や介護実習によって育成します。
- 5) 中学校・高等学校教諭(家庭)および特別支援学校教諭の免許状取得に必要な専門科目は、専攻の専門科目として設定しています。

### ● 建築デザイン専攻

#### (1) 人材養成上の目的

住生活のあり方および建築物の本質を探究し、専門知識と技術と実践力を有し、自然との共生可能な住環境を創造できる建築専門家を養成することが目的であり、一級建築士、二級建築士の国家試験受験資格、インテリア設計士、福祉住環境コーディネーター、商業施設士、中学校・高等学校教諭(家庭)、高等学校教諭(工業)、特別支援学校教諭の資格・免許状の取得が可能な教育課程となっています。

#### (2) 教育課程の概要

- 1) 専門科目は3つの学系を有しながらも、技術の理論的支柱を重視して、特に生活科学系が中心となっています。生活学系は、家政学原論、生活学原論において家・住まいの本質にかかわる「住むこと」の人間学的意味を理解します。生活科学系には、衣生活・食生活関係科目、住生活・建築関係科目、環境関係科目を開講しています。加えて職業指導科目があります。そして、獲得した知の総合と表現を目指して、卒業研究があります。
- 2) 住生活・建築関係科目の殆どが、学年進行と内容に応じて1年～4年次まで雁行形態に編成しており、建築に関する専門的知識と技術を系統的に修得することができます。このことにより、一級建築士・二級建築士・その他の建築関係資格の受験資格を取得することが可能になっています。
- 3) 一級建築士および二級建築士に向けての実践力の育成は、1年～4年次までの建築設計製図において集中して行われます。3年次から、学生各自のオリジナル設計を創作します。
- 4) 建築士としての資質およびセンスの育成のために、授業の他に、著名な建築物の視察、建築現場の視察・研修、高名な建築家による講演の聴講などを行っています。
- 5) 中学校・高等学校教諭(家庭)および高等学校教諭(工業)、特別支援学校教諭の免許状取得に必要な専門科目は、専攻の専門科目として設定しています。

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

生活科学科では、別に定める卒業要件を満たした学生に学士(家政学)の学位を授与し、以下の知識、能力、態度が身につけていることを保証します。生活科学科の教育目的を達成するために、ディプロマ・ポリシーを次の通り定めています。

1. 人間を護り、人間生活の向上と社会の発展を目指し、福祉・建築・生活のそれぞれの専門分野で、人文・社会・自然にわたる基礎的知識を総合的に用いつつ、それぞれの専門知識と技術を修得し、それらを活用できる。(知識・理解)
2. 高い教養と広範な専門性に基づき、広い視野に立って物事を柔軟かつ総合的に判断し、現代の福祉・建築・生活をめぐる諸課題を発見し、分析し、解決する能力を身につけている。(課題探求力・問題解決力)

### < 大学入学共通テスト利用選抜 >

- 建築デザイン専攻では「国語力」「数学力」より、知識と思考力、判断力を大学入学共通テストを用い、「国語」「数学」のいずれかの高得点の科目で評価します。
- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。

### 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

生活科学科は、人が人らしく生きることができる世界の創造を追求する「人間守護の理念」の実現を目指して、人間生活の向上と社会の発展に寄与する人材を養成することを教育目的としています。これを達成すべく、人間生活に関して総合的かつ専門的に学べる教育課程を編成しています。具体的には、社会福祉専攻と建築デザイン専攻の2専攻を編成し、それぞれが独自の専門性を追求できる教育課程となっています。

#### (1) 専門科目と共通基礎科目について

- 1) 人間生活の総体を学ぶにあたって、人間学系、生活学系、生活科学系という3学系を設け、それぞれの専門科目群を総合的かつ体系的に編成しています。専門性をさらに高めるために、3年、4年の2か年にわたる卒業研究があります。
- 2) 専門科目は、高い教養のある人材の養成のために、また基礎専門科目としても、共通基礎科目との間で体系的に編成しています。
- 3) 教養教育を重視し、人間学系、生活学系、生活科学系の3学系を、人文、社会、自然の3分野に対応させています。それゆえ、2専攻の専門科目は専門教育でありながらも、そのベースには、教養教育を内在しています。

#### (2) 教育課程の全体構造は、目的と手段の構図である。

目的は「人間守護」の理念の実現と、そのための「人間生活の向上と社会の発展に寄与できる人材の養成」であり、それに至るための手段は、人間学系・生活学系・生活科学系の3学系にわたる「専門科目」と「共通基礎科目」の学びです。

- 1) 特に専門科目においては、理論を活用する実践力の育成を目指しています。実践力の育成のために、各種の実習・実技、その他に各種の施設・現場の視察・見学、講演会、地域交流活動などがあります。
- 2) 人間学系、生活学系、生活科学系の3学系にわたる広い専門科目の編成は、今日の大学教育の内容として要請されている「課題探究能力」(自ら将来の課題を探究し、その課題に対して、広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる能力、つまり知の実践力・社会貢献力)の育成に適合するものです。

以上の教育課程の編成方針に基づき、社会福祉専攻、建築デザイン専攻の教育課程を編成しています。

### ● 社会福祉専攻

#### (1) 人材養成上の目的

社会福祉と介護福祉に関する専門知識と技術を学修し、介護に関する援助指導および福祉に関する相談援助指導の実践能力を有する福祉専門家を養成することが目的であり、社会福祉士および介護福祉士国家試験受験資格、中学校・高等学校教諭(家庭)、特別支援学校教諭の免許状を取得することが可能な教育課程となっています。

#### (2) 教育課程の概要

- 1) 広い視野と高度な福祉専門性を獲得した社会福祉士・介護福祉士を養成すべく、専門科目は3つの学系を有し、中でも特に生活学系を中心としています。生活学系は、家政学原論を基盤として、社会福祉関係、介護福祉関係の科目を設定しています。生活科学系は衣生活関係、食生活関係、住生活関係の科目(介護福祉必修科目を含む)を設定しています。これに卒業研究を加え構成しています。

建築デザイン専攻では、人間生活の器である建物の本質的な意味を理解し、女性の感性を活かし、人と自然の共生を可能にする住環境を柔軟に創造できる能力を有する建築設計者・技術者を養成するための教育・研究を行います。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

#### 1. 求める人材像と学力の3要素

- 社会的諸問題と建築や人間生活の関わりについて興味を持ち、知的感性を磨いていく意欲のある人。(思考力・判断力・表現力)
- コミュニケーション能力の向上に意欲を持って取り組める人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 快適な建築空間を創造し、ものづくりに対して豊かな発想で取り組める人。(思考力・判断力・表現力)
- 建築学を学ぶための基礎学力を有し、建築士を志す人。(知識・技能)

#### 2. 求める学習の成果

- 現代社会が抱える諸問題を解決するため、幅広い分野の基礎知識を習得していること。
- 高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を経験していること。
- 家政学と建築学を中心とする学士課程教育を学ぶために必要な基礎学力(国語、外国語、数学)を有するとともに、基本的な概念を理解し、基礎的事象に対しては、論理的に考察できる能力を有していること。

### □ 入学者選方法と評価のポイント

※本年度は新型コロナウイルス感染症による行動の自粛が続き、さらに各種活動の制限から各大会等も中止となっていることで、出願書類の作成にあたって、大きく影響を受けておられると思われます。

本学では、出願書類の記載について、各種活動の結果や成果の他に成果達成に向けた努力の過程や工夫等もご記入いただきますことで、多面的・総合的に評価します。

入試形態ごとの入学者に求める能力とその選抜方法、評価方法(学力の3要素を踏まえた評価)。

#### < 総合型選抜 >

- 面接において、本学科各専攻の特性に合う「思考力、判断力、表現力」を観点にして評価します。またアドミッション・ポリシーの適合性も評価します。
- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 課題のプレゼンテーションにおいて、「基礎学力(知識・技能)」を観点にして課題に対する知識が備わっているか評価するとともに「思考力・表現力」を評価します。
- オープンキャンパス等における学科個別相談で記載の「相談カルテ」は、面接の参考資料として活用します。

#### < 学校推薦型選抜 >

- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 面接において、「思考力、判断力、表現力」、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」、「アドミッション・ポリシーとの整合性」の点から評価します。なお、出願書類にある入学希望理由書は面接における参考とします。
- 基礎能力調査において基礎知識と思考力、判断力を評価します。

#### < 一般選抜 >

- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 個別学力試験において、学科の特性に合う基礎知識と思考力・判断力を独自の学力試験(国語または外国語)で評価します。

